

<p>研究代表者</p>	<p>所属学系・職名 人間・生活学系・教授 氏名 鈴木 庸裕</p>
<p>研究課題</p>	<p>子どもの人権と学校実践のための「いじめ調査」方法をめぐる実証的研究 Study on "bullying research" method for children's human rights and school practice</p>
<p>成果の概要</p>	<p>本研究課題は、大津いじめ事件後に発効した「いじめ対策推進防止法」の実効性を支える調査技法及び多職種連携体制について、その行動指針を明らかにすることにある。個々の学校や市町村教育委員会においては、いじめの防止等のために、従来「事故調査報告」といった学校内関係者や当該児童生徒に関わりの深い児童生徒や保護者（遺族など）からの聴き取りに止まってきた。</p> <p>特に、福島県では「福島県いじめ防止基本方針」（2014年7月）の法的設置以降、道徳教育の充実や体験活動の推進、少人数教育によるきめ細かな指導、いのちやこころを大切にしている性に関する指導の充実、情報モラル教育の推進、地域ぐるみによる学校支援の促進などへの視野はある。しかし、教員の教育相談に関する資質を高めるための研修の充実や、多職種連携を密にし、子どもたちや保護者の多様化する悩みに対応できる相談支援体制の整備は進んでいない。市町村においても「法に基づいた適切ないじめ防止等のための組織を設置し、必要な対策を講ずる」指針や要項をもつ地域はわずかである。これは全国的傾向である。</p> <p>この要因に関係機関との連携や相談支援体制の整備、そしていじめに関する相談や対応の体制整備に精通するコーディネーターの不在がある。</p> <p>同法が示す「学校におけるいじめの防止等のための組織」では、児童生徒のしあわせと権利擁護に資するために、1990年代以降のいじめ・自殺（自死）や学校事故などへの対応において、従来の未然防止・早期発見・事件事案への対処、いじめに関する安全配慮、動静把握、実態調査、防止措置に関する予見可能性が問われることが多く、法25条が示すように、具体的な教育的指導をめぐる提案は不十分であった。このことは、近年、福島県を含む全国的な動向において、同様な傾向にある。</p> <p>そこで、自身を含め、いじめ調査委員会の委員経験者への聴き取り調査と資料提供、及び文科省生徒指導関連部局の協力を得て課題を整理した結果、いじめは可視化が難しく、構造的なものであり、かつ、教育・心理・司法・福祉・医療などの多面的な視点を持ってはじめて解明できうるものとの考えに至った。こうした専門職が集まってはじめてひもとけるものという理解のもと、結びつく力量や専門性が求められることになる。</p> <p>例として、スクールソーシャルワークに求められるものを列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がどんな経験をしてきたのかを考えること（生活福祉鑑定）。 ・児童相談所・警察など地域相談機関との連携。 ・調査技術や司法面接（事実確認面接）。 ・「いじめ対策委員会」による「基本調査」への協力・支援。 ・「背景調査」への移行及び対応の方法。 ・第三者性をめぐる認識と中立性の担保。 ・事後対応をめぐる考察力と計画力。 ・関係者が「事実に向き合いたい」という願いに応えるための取り組み。 ・再発防止にとどまらず、関係者の権利保障に根ざすこと。 ・児童生徒や教職員へのケア・支援。 ・教育の社会的信頼の確保をめぐる視点。

<p>成果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者へのケアと支援。 ・当該学校の教職員への社会福祉的支援のあり方、など。 <p>本研究では、これまで学校教育において継続的実効的に協働する体制組織や指針を持たなかった教育職・心理職・福祉職・医療職、司法関係者がチームとなる行動基準を策定し、同法が3年後に見直すという付帯決議ともかかわり、その見直しへの課題を明らかにすることができた。</p> <p>文科省中央教育審議会答申『チームとしての学校の在り方』において学校関係者と多職種専門職との結びつきが問われる中、関係者をコーディネートする人材の指針が不明瞭であることについて、大切な提言ができたと考える。</p> <p>学会報告では、日本学校心理士会や日本学校ソーシャルワーク学会での報告、研究を活かした研修や実証的な取り組みとしては、福島県教育委員会、静岡県教育委員会、茨城県教育委員会、宮城県教育委員会、東京都北区教育委員会、熊本県震災支援などでの小・中・高校での研修やSC・SSWへの研修、アドバイザー活動の中での報告や指導・助言に活かすことができた。</p> <p>なお、刊行物としては以下に列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木庸裕編著(2016)『子どもへの気づきがつなぐ「チーム学校」』、かもがわ出版、 ・鈴木庸裕「いじめ・自殺の防止対策について(1)」(2016)『福島大学総合教育研究センター紀要』21号(p.23-p.30) ・鈴木庸裕「いじめ・自殺の防止対策について(2)」(2017)『福島大学総合教育研究センター紀要』23号(p.1-p.8) ・山本操里と共著「いじめ調査の実際と課題～社会福祉の視点から～」(2017)『福島大学総合教育研究センター紀要』23号(p.9-p.18)
--------------	--